

日本・ラオス外交関係樹立 70 周年記念
JENESYS2025 日本・ラオス若手起業家交流（日本人大学生派遣）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

日本の大学生 8 名が、12 月 2 日から 9 日の間、若手起業家交流をテーマにラオスのビエンチャンを訪問しました。

参加者は現地で起業促進のために活動する日系団体や、同団体の支援により起業したラオス企業を訪問し、視察や意見交換を通じて、ラオスにおける起業を取り巻く現状を学ぶとともに、日本の起業ノウハウや現状を伝えました。また、現地学生との意見交換やホームステイでは、ラオスと日本の双方の文化や価値観への理解を深め、若者の視点から見た起業の課題について議論を行いました。

ラオスの人々に日本の魅力を紹介することで、日本への関心を高めてもらい、さらなる友好関係の強化に向けたネットワークづくりにも取り組みました。

【参加者】 日本の大学生 合計 8 名

【訪問地】 ラオス ビエンチャン 8名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

8月26日（火曜日）	【オリエンテーション】全体初回オリエンテーション 【講義】「ようこそ、日本アセアンセンターへ」 2025年度 JENESYS ASEAN 派遣プログラム合同実施 講師：東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター（国際機関日本アセアンセンター）観光交流チーム 渡邊 光生 氏
9月25日（木曜日）	【テーマ関連視察】LJI SUSU Scale Up Batch 3
10月29日（木曜日）	【講義】派遣国理解講義「ラオスについて」 講師：一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）ラオス JDS プロジェクト事務所 山下 愛恵 カントリーオフィサー
11月18日（火曜日）	【参加者説明会】

■ 派遣プログラム：

12月2日（火曜日） 【出発前オリエンテーション】
成田国際空港より出発
ワットタイ国際空港（ビエンチャン）到着

12月3日（水曜日） 【表敬訪問】在ラオス日本国大使館 田坂 拓郎 公使
【講義】派遣国理解講義「日ラオス関係・大使館の仕事」
講師：在ラオス日本国大使館 服部 優花 三等書記官

- 【視察】タラート・サオ
 【表敬訪問】ラオス人民革命青年同盟 トーンリー・シースリット 総裁
 【視察】タート・ルアン（寺院）
 【交流】JENESYS 招へい同窓生との交流
- 12月4日（木曜日） 【講義】「ラオスにおける JICA 事業」
 講師：独立行政法人国際協力機構（JICA）ラオス事務所 鈴木 友理 職員
 【講義】テーマ関連講義「ラオス日本センター（LJI）による概要説明」
 講師：ラオス日本センター（LJI）スッタノム・ピンサヴァット 副所長
 【企業訪問・交流】
 Systory 社（LJI Susu Scale-Up Batch2 入賞、経営塾受講企業）
 【企業訪問・交流】
 Saduakdee Automation Group 社（LJI Susu Scale-Up Batch3 入賞企業）
- 12月5日（金曜日） 【学校交流】ラオス国立大学 経済経営学部
 【テーマ関連視察】ラオス日本センター（LJI）
 【視察】タラート・ラオ（市場）、ビエンチャンナイトマーケット
- 12月6日（土曜日） 【視察】コープビジターセンター
 【ホストファミリー対面式・ホームステイ】
- 12月7日（日曜日） 【ホームステイ・ホストファミリー歓送会】
 【ワークショップ】報告会準備（渡航成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
- 12月8日（月曜日） 【報告会】渡航成果・帰国後の活動計画発表
- 12月9日（火曜日） ワットタイ国際空港（ビエンチャン）より出発
 成田国際空港到着

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
8月26日【講義】 「ようこそ、日本アセアンセンターへ」	8月26日【講義】記念撮影



10 月 29 日【講義】派遣国理解講義
「ラオスについて」



10 月 29 日【講義】記念撮影



11 月 18 日【参加者説明会】



11 月 18 日【参加者説明会】質疑応答

派遣プログラム



12 月 3 日【表敬訪問】
在ラオス日本国大使館 田坂 拓郎 公使



12 月 3 日【講義】派遣国理解講義
「日ラオス関係・大使館の仕事」



12 月 3 日【表敬訪問】ラオス人民革命青年同盟
トーンリー・シースリット 総裁



12 月 3 日【視察】タート・ルアン（寺院）



12月3日【交流】
JENESYS 招へい同窓生との交流



12月4日【講義】「ラオスにおける JICA 事業」



12月4日【企業訪問・交流】Systory 社（LJI Susu Scale-Up Batch2 入賞、経営塾受講企業）



12月4日【企業訪問・交流】Saduakdee Automation Group 社（LJI Susu Scale-Up Batch3 入賞企業）



12月5日【学校交流】ラオス国立大学
経済経営学部（起業についての発表）



12月5日【学校交流】ラオス国立大学
経済経営学部（書道体験）



12月5日【学校交流】ラオス国立大学
経済経営学部（書道体験）



12月5日【学校交流】ラオス国立大学
経済経営学部（折り紙体験）



12月5日【学校交流】ラオス国立大学
経済経営学部（折り紙体験）



12月5日【テーマ関連視察】
ラオス日本センター（LJI）



12月6日【視察】コープビジターセンター



12月7日【ホームステイ】



12月7日【ホームステイ】



12月7日【ワークショップ】



12月8日【報告会】



12月8日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

ラオス青年同盟で丁寧なおもてなしをいただいたことが印象に残っています。今回の訪問を通じて、青年同盟が国家と密接に連携し、外交面でも重要な役割を果たしていることを知り、大変学びの多い時間となりました。また、総裁の「日本とラオスをつなぐ存在として活躍してほしい」という趣旨のお言葉が特に印象に残っています。ラオスには魅力的な点が数多くあり、今後さらに発展していく可能性を強く感じています。今回の経験を通して、両国の架け橋となれるよう、より一層努力していきたいです。

◆ 大学生

実際に JICA の業務を聞く中で、JICA の開発援助の果たす役割、そして日本との信頼をつなぐという役割についての理解を深めることができました。特に外資系企業とラオス国内の開発についてのお話は私自身も新たな視点を得ることができ大変勉強になりました。また、日本が行っている ODA が、公共事業や算数の教科書など、ラオスの人たちにとって身近に関わっていることを知りました。

◆ 大学生

Systory 社が、2000 ドルの元手から起業して事業を発展させたことと、教えていただいた Pain Point という新しい概念が印象的でした。事業を起こすにはもちろんお金が必要ですが、実際に起業された方の元手の限界を知ることでより現実的に起業を想像することができました。また、Pain Point という概念を知ることで、顧客のニーズにより応える力をつけることができそうだと感じました。また、すでに日本の産業にラオスの会社が参入していることに驚きました。ラオスの最前線でビジネスをされている方のお話を伺うことができ、ラオスでのビジネスの現状や課題を体感することができました。

◆ 大学生

ラオス国立大学で現地の経済や起業について学んでいる大学生と交流し、現地の学生たちがどのような意識で起業について考えているか、生の声を聞くことができました。特に、起業を具体的に考えている学生や、実際に行っている学生と意見交換ができ、日本ではなかなか得られない貴重な経験でした。

◆ 大学生

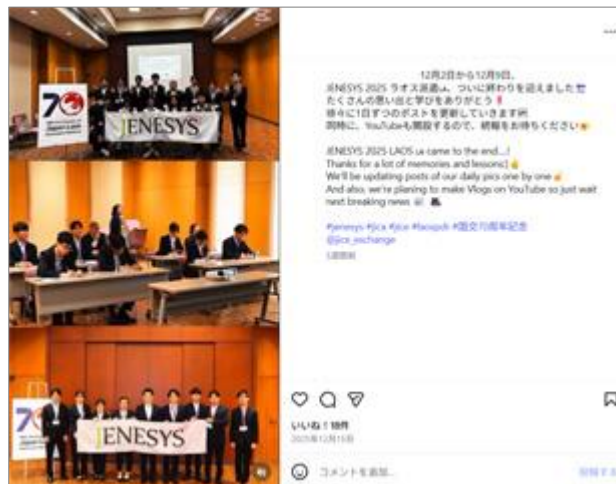
ホストファミリーとの交流が印象に残っています。特にホストファザーは以前、日本の JICA 支援による小学校の建築に関わっており、日本の ODA によって建築された道路や建物について説明してくれました。また息子さんも将来日本への留学を希望しており、家族全体で日本について深い関心をお持ちでした。私たちを大変歓迎してくださり、ラオス内での日本に対するイメージが良いことを肌で感じることができました。今度ホストファミリーが来日予定とのことなので、その際は私が日本を案内できたらと思っています。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

ホームステイで最も印象的だったのは食事だった様で、ラオスの料理やカフェを心から楽しんでくれました。彼らは食に関心が高く、さまざまな料理を積極的に試していました。ラオスの文化に関する話や、私の家族との気軽なおしゃべりも楽しんでいました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等



2025 年 12 月 8 日 (Instagram)

明日、私はラオスを離れます。

この滞在では多くの特別な経験をしました。
おいしい食べ物、優しい人々、そして豊かな土地
——滞在を通して、ラオスにも日本と同じような
魅力があるのだと改めて感じました。
次は友人たちと一緒にラオスを訪れたいと思いま
す。

2025 年 12 月 5 日 (Instagram)

12月2日から12月9日、JENESYS 2025 ラオス派遣がついに終わりを迎えました。

たくさんの思い出と学びをありがとうございました。

徐々に1日ずつのポストを更新していきます。

同時に、YouTube も開設するので、続報をお待ちください。



2025 年 12 月 3 日（ラオス青年マスメディアの
Facebook）

「ラオス人民革命青年同盟総裁が日本の JENESYS プログラム学生青年団の訪問を歓迎」

2025 年 12 月 4 日 (Systory 社の Facebook)

私たちの業務の進め方について、知識や経験を共有する機会として当社を訪問して下さった JENESYS プログラム及び LJI の皆様に、心より感謝申し上げます。



2025 年 12 月 6 日（ラオス国立大学 経済経営学部の Facebook）

ラオス国立大学経済経営学部（FEBA）は、温かく友好的な雰囲気の中で JENESYS 2025 派遣プログラムを無事に終えました。本プログラムの主な目的は、日本の技術や生活様式を含む多様な側面への理解を深め、文化交流と相互理解を促進することにあります。

また、ラオスの若者たちは、ラオス固有の文化的アイデンティティを紹介するとともに、創造的かつ双方向的な活動に参加し、両国の若者同士の友情をさらに深める貴重な機会を得ました。



2025 年 12 月 8 日（ラオス国立大学 経済経営学部の Facebook）

「文化交流活動の動画」

本動画は、「JENESYS 2025 派遣プログラム」における文化交流活動の様子をまとめたものです。プログラム期間中に行われた文化紹介や交流の場面を通して、ラオスと日本それぞれの文化や魅力が伝わる、印象深い場面が数多く記録されています。

知識の共有やさまざまな交流活動を通じて相互理解を深め、最後はラオスと日本の参加者が一体となって輪になって踊るラオスの伝統的な踊り「ラムウォン」で締めくくられました。会場は笑顔と活気にあふれ、ラオスと日本の若者同士の友好と一体感が強く感じられる時間となりました。

本プログラムは、参加者同士の理解促進と良好な関係構築という目的を十分に達成することができたといえます。今回の活動の実現にご尽力いただいたすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

6. 報告会での渡航成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全 1 グループ発表

ラオスでの学びと 未来に向けて	ラオス国立大学 	“発信 → 興味 → 行動 → 訪日 → 将来的な日ラオスの架け橋”
【成果の発表】 ◆ プログラムでの学び ①日本の魅力 ラオスを訪問し、ラオスと日本を比較してみて日本の魅力を再認識することができました。「繊細な配慮」、「規則正しさ」、社会インフラの「信頼性」が国際協力の場に活かされていました。また、基礎的な学問により日本の高度成長が可能となったと感じました。国内にいただけでは気づけなかったこの魅力を、今後は「世界の中の日本」という広い視野で捉え直し、ビジネスモデルの構築に活かしていくべきだと感じました。 ②ラオスの魅力 さまざまな訪問場所で感じたラオスの人々が示す「人を思う心」や思いやりの深さが強く印象に残りました。こうした姿勢は、日常生活だけでなく、同国の起業文化においても重要な要因となっていることがうかがえました。 企業訪問で伺った Systory 社では、社長が顧客に対する思いやりや配慮について強調しており、ラオスの起業のキーポイントだと感じました。 【アクション・プラン】 「ラオスの人に日本文化を知ってもらい、日本を実際に訪れる人を増やすこと」 Instagram を活用し、日本の四季や食べ物、観光地など日本の文化を紹介する情報発信を継続的にを行います。通常の投稿と動画の投稿を英語とラオス語の両方で行います。発信→興味→行動→訪日→将来的な日ラオの架け橋になる、という流れを作ります。 しかし、私たちのゴールは、アクション・プラン達成ではなく、この活動をきっかけとして、今後も継続的にラオスと日本を結ぶ存在であり続けることだと考えています。		

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）